



数年前まで、広告代理店に勤めておりました。今晚出席している方で、デザイナーの千葉さんを存じております。数年ぶりの再会です。さらに、及川先生もいらっしゃいまして、都南のカナンの園のレストラン「となんカナン」という名称は公募に投稿した私の作品でした。及川先生、お世話になっております。

それでは早速、盛岡に関するクイズを10問お持ちいたしました。昨年、盛岡駅開業120周年記念イベントで使ったクイズです。今晚のこの会場は盛岡駅前、今日のお題は盛岡ですのでみなさん盛岡についてのクイズを行ってみましょう。

Q1、120年前盛岡駅が開業した頃の盛岡市の人口は約5万人であった。

A、「×」約3万人でした。400年前、城下町盛岡ができた頃から、3万人で推移していました。

Q2、昭和20年3月10日は米軍による東京大空襲の日ですが、同じ日に盛岡駅にも爆弾が投下された。



戦後の盛岡駅と広場

A、「○」3月10日と8月10日の2回空襲を受けております。

Q3、盛岡駅が開業した頃、駅が建設された場所は〈厨川村(くりあがわ)〉と呼ばれていた。

A、「○」北上川より西側は岡ではありませんでした。

Q4、現在の盛岡駅舎は初代から数えて5代目の建物です。

A、「×」4代目の建物なのです。

Q5、開運橋は有料の橋であった。



開運橋

A、「○」駅開業に合わせて開通しました。当時の県知事は盛岡市議会と政争があり、盛岡市議会は建設費予算案

を否決してしまいました。知事は、市内の有力者の助けを得て、民間の資本で橋を架け有料になったのです。一人1銭、大八車で2銭、馬で渡ると3銭の料金でした。翌年、盛岡市が橋を買い取り、無料の橋になりました。

Q6、現在はフェザンに吸収されたかつての駅地下街の愛称は「ステーションデパート」と呼ばれていた。

A、「×」「ステーションデパート」から「パルモ」と愛称が変わり、現在の「フェザン」となっております。

Q7、盛岡駅は当初、仙北町に建設が予定されていた。A、「○」現在の駅周辺は当時、湿地帯でした。仙北町は城下町盛岡の町でしたが、駅ができるとばい菌が入ってくる、犯罪者もくる、環境が悪くなると反対したそうです。その後の発展に乗り遅れた仙北町の市民は、宰相「原敬」に陳情して、仙北町駅を作ってもらいました。

Q8、明治23年の盛岡駅開業当時、盛岡・上野間の直通列車が走っていた。

A、「×」盛岡・仙台、仙台・上野の乗り継ぎが必要でした。翌年からは直通列車が走りました。

Q9、当時の盛岡・上野間の運行時間は18時間であった。

A、「○」18時間5分かかりました。昭和30年のころは13時間、45年の特急やまびこは6時間半、現在の新幹線は2時間39分です。

Q10、開運橋が開通したのは盛岡駅が開業した日と同じ明治23年11月1日である。

A、「○」駅開業に合わせて、突貫工事で開通を合わせたそうです、過去4回、流失しています。

私が在籍している「文化地層研究会」は、50歳を過ぎたころ、パソコンを手に入れた時「イワテライン日記」というHPに遭遇しました。今で言うブログです、仙台出身の管理者は盛岡を歩いて、写真付きの感想を載せていました。僕は、生まれ育ちが盛岡ですから、ブログの掲示板に思ったかぶりで書き込みをしていました。さらに輪が広がり、書き込みが増えていき、当然のようにオフ会まで発展しました。ハンドルネームだけの付き合いでしたが、あつて話をすると話は盛り上がり、バス停の名称ですが、「内丸」という呼称が消えて、「県庁市役所前」に変わってしまった、これは一例で、「昔からの呼び名が無くなってしまうのは面白くないね。」、という意見ができました。

「昔は、大工町、油町、花屋町とか、中央通り3丁目は三戸町と言っていたんだよ」、と私が話をすると、集まった若者たちは、かっこいいと言うわけです。なぜ、昔の町名が消えてしまったの？ それでは、現在の地図の上に昔の町名を合わせた地図をつくりませんか、という話になり「文化地層研究会」が発足しました。歴史や文化は、自分の足元に地層のように埋まっている、それを掘り起こして再発見しよう、これからの街作りに活用していきたい、という意義を立てました。町歩きをして、歴史や人物の情報を交換してきました。

ある日、犬の散歩をしていて、糞の始末をしようとしてしゃがんだとき目の前に「ヘレンケラー手植えの木」の立て札を盲学校の庭に見つけました。ヘレンケラーは昭和12年6月12日に盛岡に1泊2日で来盛し、下の橋中学校と、県公会堂の2か所で講演をして、その



ヘレンケラーの木

後盲学校を訪れ、生徒たちを激励していました。この時泊まった旅館は、六日町の高与旅館、当時の盛岡の迎賓館とも呼ぶべき由緒ある旅館に泊まっていました。この時の記念樹だったのです。歩いて策すると犬の糞からヘレンケラーの来盛、当時の迎賓館と言うべき旅館の名前まで解かったのです。

会員はそれぞれの動機があって入ってきましたけれども、一致したのは旧町名を現在の地図に重ね合わせようという事でした。

お金が必要です。会員の期待を受けて、銀行に融資依頼をしました。なかなか理解を得られずに苦労しました。

昭和38年に全国的に旧町名は一気に無くなりました。郵便番号制度の導入に伴う出来事でした。京都や金沢は大変な反対運動で、割と町名が残ったのですが、盛岡はほとんど無くなってしまいました。残ったのは5町名だけです。

若い会員は、無くなった町名を復活させるために新築のマンションに旧町名を使ってもらおうと活動しました。金沢では、市長をはじめ運動が盛んになり、旧町名の復活で10年で10ヶ所復活しました。

長崎でもありました。長野の上田市でもありました。盛岡市では復活はなっていませんが、市内のあちこちに旧町名を示した看板が立っています。

話しを戻して、銀行の融資の話ですが、銀行はこちらさんだけではないので、後から後悔しても知りませんよ、などと脅したりすかしたりして、サラリーマン時代の駆け引きのノウハウをすべてつぎ込んで融資を得ました。冬のボーナスキャンペーンで、おまけでこの地図を配ったのです。昔のコネクションでIBCのラジオやニュースなどにも取り上げて貰って、これが大成功したのです。

5千部の中から3千部を銀行にプレゼントして、銀行の開店前から行列ができてこの地図が大人気になったのです。

この地図は、銀行のコミュニケーションツールとして若い営業員は張り切って外回りの営業に飛び出し

ていったのでした。増刷を続けて小学校や老人ホームや、この銀行は話題と地図を提供していきました。担当者は金一封のご褒美をもらったそうです、私には何のご褒美もありませんでしたが、、、。



もりおか啄木・賢治青春館

その後、啄木賢治青春記念館開館の時は、啄木と賢治が盛岡と関わった場所の地図。盛岡の湧水を、造り酒屋と豆腐店を記した地図も発行しました。少し資金ができましたので、金沢まで旧町名復活の足跡を視察に行ってきました。

盛岡の天然記念物である「しだれ桂」の50年の足跡をまとめたりしました。原産地の早池峰さんから、盛岡に来るまでの軌跡です。

こんなに歴史が埋まっている盛岡をかんとんにいじれるはずがありません。城下盛岡の鉦屋町（なだやちょう）の話ですが、現在の盛岡でいちばん昔の雰囲気を残している町です。せまく車が対向するのめやっとの通りですが、いままで死亡事故が一件もないのです。この通りを都市計画で全部つぶして、4車線の道路を通してしまおうという事でした。これでは、この町のコミュニティは崩壊してしまいます。盛岡市は、住民の代替わりの時期を狙って買収をしてきましたが、よそ者の私達がイベントを開催して、雛人形の展示や、大慈寺清水を使った豆腐を配ったり、他から人を呼び鉦屋町の魅力をアピールしてきました。地元の方々も評価を聞いて、見て、この町の再発見をしてくれました。

イベントが人を呼び、意識が変わり、家の建て替えのときは町屋風にしたりしての活動の結果、盛岡市は鉦屋町の都市計画を白紙撤回しました。鉦屋町は守られたのです。

盛岡に限らず、地元学を進めれば地元への愛着が湧いてきます。地元の人が地元を知ることの素晴らしさを継承していきたいと活動を続けております。

(もりおかクラブ:2011年1月例会卓話)